

衛生専門課程 理容科 授業科目一覧表

※「年間授業時数」欄の数字をクリックすると該当する科目のシラバスにジャンプします。

課目区分		授業形態	授業課目	第 1 学年	第 2 学年	授業時数合計 [単位数]
				年間授業時数	年間授業時数	
必修課目	専門教育課目	講義	関係法規・制度	15	15	30 [1]
			衛生管理	30	60	90 [3]
			保健	30	60	90 [3]
			香粧品化学	30	30	60 [2]
			文化論	30	30	60 [2]
			理容技術理論	90	60	150 [5]
			運営管理	15	15	30 [1]
		実習	理容実習	480	420	900 [30]
選択課目	一般教養課目	講義	ビジネスマナー	30		30 [1]
			色彩学	60		60 [2]
		講義・実習	クリエイティブワーク	30		30 [1]
	専門教育課目	講義・実習	メイク技術	60		60 [2]
			ネイル技術	60		60 [2]
			エステティック技術	30	30	60 [2]
			サロンワークスキル	30	30	60 [2]
		講義	理容総合理論		60	60 [2]
		実習	理容総合技術		180	180 [6]
必修課目授業時数計				720	690	1410 [47]
選択課目授業時数計				300	300	600 [20]
卒業に必要な総授業時数				1020	990	2010 [67]

2026年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	関係法規・制度（一）	課目 区分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	藤森（康）
単 位 数 （ 時 間 数 ）	0.5 単位 （15 時間）	履修 時期	1 年次 前期	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 15 時 間履修
学 習 目 標	日本国の法制度の概要を理解するとともに、理容業に関わる衛生行政の理解を深める。そのうえで理容業に直結する「理容師法」について学習を進めていく。 「理容師法」については特にその制定目的・人に関する規定・施設に関する規定・違反者に対する処分等について理解を深める。						
使 用 す る テ キ ス ト	『関係法規・制度』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	年間の授業計画 - 法制度の概要（1 時間） - 法とは何か ・ 法の形式 ・ 衛生法規 - 衛生行政の概要（1 時間） - 衛生行政 ・ 保健所 - 理容師法（11 時間） - 理容師法の目的 ・ 用語の定義 ・ 理容師試験 - 免許と登録 ・ 理容師の義務 ・ 管理理容師 - 理容所の開設 ・ 開設者の衛生措置 ・ 理容所以外での業務 - 立入検査 ・ 行政処分 ・ 罰則 - 総合学習（2 時間） - 期末考査の実施と解説						
試 験 の 実 施 方 法	期末考査を実施。 出題方法は穴埋め問題（語群あり）と三択問題あるいは四択問題。						
成 績 評 価 方 法	90%は期末考査の評点 5%はノート提出の評点 5%は出席状況や授業態度						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	本講義では「理容師法」という理容師であれば必ず知っていなければならない法律を学習していきます。 関係法規・制度（一）では理容業に関わる法制度を大まかに理解してもらいます。授業進度は早いですがまずは法制度の全体図を把握するように心がけましょう。そして重要な箇所についてはきちんと覚えておくこと。 授業では教科書とノートに加え配布した問題集を必ず持参しましょう。筆記具としてはマーカーペンを用意しておくことより学習がスムーズです。						

2026年度 授業概要（シラバス）

大宮理容美容専門学校

課 目 名	衛生管理（一）	課 目 区 分	必修専門教 育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	木村																									
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1 単位 (30 時間)	履 修 時 期	1 年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 60 時間 履修																									
学 習 目 標	公衆衛生の意義と本質とを理解し、美容師が公衆衛生の維持と増進とについて重大な責務を担わなければならない理由は何かを十分に理解すること。特に生活衛生上の意義と目的について、美容師の業務と関連付けながら具体的に理解すること。 美容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視し、美容における衛生措置の重要性について理解すること。																															
使用する テキスト	『衛生管理』（公益社団法人日本理容美容教育センター）																															
年 間 の 授 業 計 画	前期 15 時間 範囲 第 1 編 <table><tr><td>編</td><td>章</td><td>内容</td><td>時間数</td></tr><tr><td rowspan="3">第 1 編</td><td>第 1 章</td><td>公衆衛生の概要</td><td>5</td></tr><tr><td>第 2 章</td><td>保健</td><td>5</td></tr><tr><td>全て</td><td>復習や小テストなど</td><td>5</td></tr></table> 後期 15 時間 範囲 第 2 編 <table><tr><td>編</td><td>章</td><td>内容</td><td>時間数</td></tr><tr><td rowspan="2">第 1 編</td><td>第 1 章</td><td>環境衛生</td><td>10</td></tr><tr><td>全て</td><td>復習や小テストなど</td><td>5</td></tr></table>							編	章	内容	時間数	第 1 編	第 1 章	公衆衛生の概要	5	第 2 章	保健	5	全て	復習や小テストなど	5	編	章	内容	時間数	第 1 編	第 1 章	環境衛生	10	全て	復習や小テストなど	5
編	章	内容	時間数																													
第 1 編	第 1 章	公衆衛生の概要	5																													
	第 2 章	保健	5																													
	全て	復習や小テストなど	5																													
編	章	内容	時間数																													
第 1 編	第 1 章	環境衛生	10																													
	全て	復習や小テストなど	5																													
試 験 の 実 施 方 法	前期末考査及び後期末考査を実施 前期の出題範囲は第 1 編 後期の出題範囲は第 1 編・第 2 編 考査の結果、60 点未満の者は再試験を行う。																															
成 績 評 価 方 法	90％は期末考査 10％は授業態度・出席状況																															
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	授業では、今後の試験対策として、記憶して欲しい部分は板書をしていきますので、ノートは必ず持参してください。また、ノートを見やすくするために、色ペンやマーカーペンがあるといいでしょう。																															

2026年度 授業概要（シラバス）						大宮理容美容専門学校																											
課 目 名	保健（一）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	木村																										
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1 単位 （30 時間）	履 修 時 期	1 年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 60 時間 履修																										
学 習 目 標	理容技術の基礎となる人体について、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識を習得すること。 理容の業務を安全かつ効果的に行うためには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解すること。																																
使用する テキスト	「保健」（公益社団法人日本理容美容教育センター）																																
年 間 の 授 業 計 画	範囲 第2編 <table><tr><th>編</th><th>章</th><th>内容</th><th>時間数</th></tr><tr><td rowspan="7">第2編</td><td>第1章</td><td>皮膚の構造</td><td>3</td></tr><tr><td>第2章</td><td>皮膚付属器官の構造</td><td>2</td></tr><tr><td>第3章</td><td>皮膚の循環器系と神経系</td><td>2</td></tr><tr><td>第4章</td><td>皮膚と皮膚付属器官の生理機能</td><td>3</td></tr><tr><td>第5章</td><td>皮膚と皮膚付属機関器官の保健</td><td>5</td></tr><tr><td>第6章</td><td>皮膚と皮膚付属機関器官の疾患</td><td>10</td></tr><tr><td></td><td>復習や小テストなど</td><td>5</td></tr></table>							編	章	内容	時間数	第2編	第1章	皮膚の構造	3	第2章	皮膚付属器官の構造	2	第3章	皮膚の循環器系と神経系	2	第4章	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	3	第5章	皮膚と皮膚付属機関器官の保健	5	第6章	皮膚と皮膚付属機関器官の疾患	10		復習や小テストなど	5
編	章	内容	時間数																														
第2編	第1章	皮膚の構造	3																														
	第2章	皮膚付属器官の構造	2																														
	第3章	皮膚の循環器系と神経系	2																														
	第4章	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	3																														
	第5章	皮膚と皮膚付属機関器官の保健	5																														
	第6章	皮膚と皮膚付属機関器官の疾患	10																														
		復習や小テストなど	5																														
試 験 の 実 施 方 法	期末考査を実施 出題範囲は第2編 考査の結果、60 点未満の者は再試験を行う。																																
成 績 評 価 方 法	90%は期末考査 10%は授業態度・出席状況																																
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	授業では、今後の試験対策として、記憶して欲しい部分は板書をしていきますので、ノートは必ず持参してください。また、ノートを見やすくするために、色ペンやマーカーペンがあるといいでしょう。																																

2026年度 授業概要（シラバス）						大宮理容美容専門学校																		
課 目 名	香粧品化学（一）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	川崎																	
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1 単位 (30 時間)	履 修 時 期	1 年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 30 時間 履修																	
学 習 目 標	香粧品の化学的性質と安全な取扱方法を理解し、理容施術における適切な使用知識を習得することで、健康被害を防ぎながら効果的なサービス提供ができるようになることを目標とする。 香粧品の成分や作用機序に関する基礎知識を体系的に学び、施術目的に応じた適切な選択ができる判断力を養う。 関連する法規や安全基準について理解を深め、現場で求められる責任ある取り扱いの基礎を確立する。																							
使用する テキスト	「香粧品化学」（公益社団法人日本理容美容教育センター）																							
年 間 の 授 業 計 画	範囲：第1編 後期：30時間 <table><tr><th>編</th><th>章</th><th>内容</th><th>時間数</th></tr><tr><td rowspan="4">第1編</td><td>第1章</td><td>香粧品総論</td><td>4</td></tr><tr><td>第2章</td><td>香粧品を使用する際に気をつけるべきこと</td><td>5</td></tr><tr><td>第3章</td><td>香粧品の成り立ち</td><td>16</td></tr><tr><td>全て</td><td>復習や小テストなど</td><td>5</td></tr></table>							編	章	内容	時間数	第1編	第1章	香粧品総論	4	第2章	香粧品を使用する際に気をつけるべきこと	5	第3章	香粧品の成り立ち	16	全て	復習や小テストなど	5
編	章	内容	時間数																					
第1編	第1章	香粧品総論	4																					
	第2章	香粧品を使用する際に気をつけるべきこと	5																					
	第3章	香粧品の成り立ち	16																					
	全て	復習や小テストなど	5																					
試 験 の 実 施 方 法	後期末考査を実施 出題範囲は第1編 第1章～第3章																							
成 績 評 価 方 法	90％は期末考査 10％は授業態度・出席状況																							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	授業では教科書、ノート、筆記用具を忘れずに持参してください。 教科書にアンダーラインを引くので色ペンかマーカーを2色用意してください。																							

2026年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	文化論（一）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅（宗）
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1 単位 （30 時間）	履 修 時 期	1 年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 30 時間 履修
学 習 目 標	理容業の使命の一つが、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識し、この使命の達成のために必要な美的感覚を身に付け、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力を養うこと。 理容の業務を全うするため、美の成り立ちやあり方を知り理解を深め、確かな技術力を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを学ぶこと。						
使用する テキスト	『文化論』（公益社団法人 日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	第4章 ファッション文化史 西洋編 （ 16 時間 ） 1 古代エジプト 2 古代ギリシャ・ローマ 3 古代ゲルマン 4 中世ヨーロッパ 5 近世（16世紀） 6 近世（17世紀） 7 近世（18世紀） 8 近代（18世紀末～19世紀初め） 9 近代（19世紀） 10 現代（1910年代～1920年代） 11 現代（1930年代～1940年代） 12 現代（1940年代後半～1950年代） 13 現代（1960年代） 14 現代Ⅴ（1970年代） 15 現代（1980年代） 16 現代Ⅶ1990年代～2010年代） 第5章 礼装の種類 （ 5 時間 ） 1 和装の礼装 2 洋装の礼装 総論及び第2章 日本の理容業美容業の歴史 （ 4 時間 ） 総合学習 （ 5 時間 ）						
試 験 の 実 施 方 法	前期期末考查内で筆記試験（45分間）を実施						
成 績 評 価 方 法	期末考查の評点						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	理容・美容が関わってきたさまざまな髪型、化粧、服装の変遷流行を学ぶことによりその風俗と時代背景とのつながりを読み解くことで、流行のメカニズムを知り、時代を読みデザインを起こすためのヒントにしたいものです。 理容師・美容師を志すものとして、美の成り立ちやあり方を知ること、技術を学ぶうえで理解を深め、新しいデザインの創造の糧になります。 授業では教科書とノートを必ず持参しましょう。筆記用具としては蛍光ペン（黄・ピンク）を用意しておくことで学習がスムーズです。						

2026年度 授業概要（シラバス）						大宮理容美容専門学校																																																										
課 目 名	理容技術理論（一）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	川崎																																																									
単 位 数 （ 時 間 数 ）	3単位 (90 時間)	履 修 時 期	1 年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次で 60 時間履修																																																									
学 習 目 標	理容技術に関する知識と衛生的・能率的な実践態度を身につけ、基礎的技術を安全かつ効果的に行える能力を養うことを目指す。 理容器具の正しい取り扱いや使用上の注意を理解し、危害防止に配慮した施術ができるようになるとともに、合理的思考に基づいた技術の向上を図る。 また、経験だけに依存せず、科学的・合理的な方法によって理容技術を理解し、工夫や創造性を発揮しながら実践できる姿勢を身につける。																																																															
使用 する テキスト	「理容技術理論 1」（公益社団法人日本理容美容教育センター） 「理容技術理論 2」（公益社団法人日本理容美容教育センター）																																																															
年 間 の 授 業 計 画	範囲：「理容技術理論 1」「理容技術理論 2」 前期 45 時間 <table><tr><th>章</th><th>内容</th><th>時間数</th></tr><tr><td>序章</td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>第 1 章</td><td>理容技術の基礎</td><td>4</td></tr><tr><td>第 2 章</td><td>理容用具</td><td>8</td></tr><tr><td>第 6 章</td><td>パーマメントセット</td><td>7</td></tr><tr><td>第 11 章</td><td>シャンプー・イング&リンシング</td><td>6</td></tr><tr><td>第 12 章</td><td>理容マッサージ</td><td>2</td></tr><tr><td>第 7 章</td><td>ヘアカラーリング</td><td>7</td></tr><tr><td>その他</td><td>復習や小テストなど</td><td>10</td></tr></table> 後期 45 時間 <table><tr><th>章</th><th>内容</th><th>時間数</th></tr><tr><td>第 3 章</td><td>ヘアデザイン</td><td>2</td></tr><tr><td>第 4 章</td><td>ヘアカッティング</td><td>9</td></tr><tr><td>第 8 章</td><td>シェービング</td><td>8</td></tr><tr><td>第 9 章</td><td>理容エステティック</td><td>6</td></tr><tr><td>第 5 章</td><td>ヘアセッティング</td><td>3</td></tr><tr><td>第 10 章</td><td>理容クリニック</td><td>3</td></tr><tr><td>第 13 章</td><td>ヘアトリートメント</td><td>2</td></tr><tr><td>第 14 章</td><td>スカルプトリートメント</td><td>2</td></tr><tr><td>その他</td><td>復習や小テストなど</td><td>10</td></tr></table> 実習の授業と理論の授業の内容を合わせるため、教科書の順番通りに実施しないことがある							章	内容	時間数	序章		1	第 1 章	理容技術の基礎	4	第 2 章	理容用具	8	第 6 章	パーマメントセット	7	第 11 章	シャンプー・イング&リンシング	6	第 12 章	理容マッサージ	2	第 7 章	ヘアカラーリング	7	その他	復習や小テストなど	10	章	内容	時間数	第 3 章	ヘアデザイン	2	第 4 章	ヘアカッティング	9	第 8 章	シェービング	8	第 9 章	理容エステティック	6	第 5 章	ヘアセッティング	3	第 10 章	理容クリニック	3	第 13 章	ヘアトリートメント	2	第 14 章	スカルプトリートメント	2	その他	復習や小テストなど	10
章	内容	時間数																																																														
序章		1																																																														
第 1 章	理容技術の基礎	4																																																														
第 2 章	理容用具	8																																																														
第 6 章	パーマメントセット	7																																																														
第 11 章	シャンプー・イング&リンシング	6																																																														
第 12 章	理容マッサージ	2																																																														
第 7 章	ヘアカラーリング	7																																																														
その他	復習や小テストなど	10																																																														
章	内容	時間数																																																														
第 3 章	ヘアデザイン	2																																																														
第 4 章	ヘアカッティング	9																																																														
第 8 章	シェービング	8																																																														
第 9 章	理容エステティック	6																																																														
第 5 章	ヘアセッティング	3																																																														
第 10 章	理容クリニック	3																																																														
第 13 章	ヘアトリートメント	2																																																														
第 14 章	スカルプトリートメント	2																																																														
その他	復習や小テストなど	10																																																														
試 験 の 実 施 方 法	前期末考査及び後期末考査を実施 前期の出題範囲は、1・2・6・7・11・12 章 後期の出題範囲は、1 章～第 14 章（重点項目 3・4・5・8・9・10・13・14 章）																																																															

成績評価 方 法	90%は期末考査 10%は授業態度・出席状況
学 生 へ の メッセージ	授業では教科書、ノート、筆記用具を忘れずに持参してください。 教科書にアンダーラインを引くので色ペンかマーカーを2色用意してください。

2026年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	運営管理（一）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅（宗）
単 位 数 （ 時 間 数 ）	0.5 単位 （15 時間）	履 修 時 期	1 年次 前期	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 15 時間 履修
学 習 目 標	経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学ぶ。経営とは何か、経営とは何を目的に、どのようなことを行っていくかといった、経営の基礎を理解する。 人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学ぶ。理容・美容のサービスでは、人が大きな役割を果たす。人を雇ううえで経営者が考えていることを学ぶと共に、従業員として働いていくうえで求められていることについて理解する。						
使用する テキスト	『運営管理』（公益社団法人 日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	第1編 経営者の視点 （ 6 時間 ） 第1章 経営とは・経営者とは 第2章 理容業・美容業の経営について 第3章 資金の管理 第2編 人という資源 従業員としての視点 （ 6 時間 ） 第1章 人という資源 第2章 従業員としての視点から 第3章 健康・安全な職場環境の実現 総合学習 （ 3 時間 ）						
試 験 の 実 施 方 法	前期期末考查内で筆記試験（45分間）を実施						
成 績 評 価 方 法	期末考查の評点						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	運営管理で学ぶことは、その長い道のりを歩むために必要な、基本的な知識や方法です。理容・美容の技を得る皆さんは、その力を顧客のために活かすことで素晴らしい成果を実現し、それによって社会にとっても大切な存在として成長していくことが期待されていますのでしっかり学んでください。授業では教科書とノートを必ず持参しましょう。筆記用具としては蛍光ペン（黄・ピンク）を用意しておくことで学習がスムーズです。						

2026年度 授業概要（シラバス）						大宮理容美容専門学校																									
課 目 名	理容実習（一）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	川崎																								
単 位 数 （ 時 間 数 ）	16単位 (480時間)	履 修 時 期	1年次 通年	授 業 方 法	実習	備 考	2年次で 420 時間 履修																								
「実務経験のある教員による授業」に該当する課目																															
理容師として理容室に勤務していた教員が、実際に理容室で行われているカット、シェービング等の技術を取り入れた授業を行う。																															
学 習 目 標	理容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得すること。 理容所における衛生管理の重要性を認識し、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けること。 個々の客の要望に応じた理容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けること。																														
使用 する テキスト	「理容実習1」（公益社団法人日本理容美容教育センター） 「理容実習2」（公益社団法人日本理容美容教育センター）																														
年 間 の 授 業 計 画	前期 250時間 <table><tr><th>内 容</th><th>時間数</th></tr><tr><td>ワインディング</td><td>100</td></tr><tr><td>シャンプー＆マッサージ</td><td>60</td></tr><tr><td>創作ウィッグ作成</td><td>40</td></tr><tr><td>カット</td><td>20</td></tr><tr><td>その他</td><td>30</td></tr></table> 後期 230時間 <table><tr><th>内 容</th><th>時間数</th></tr><tr><td>カット</td><td>100</td></tr><tr><td>ドライヤーセット</td><td>40</td></tr><tr><td>実務実習</td><td>30</td></tr><tr><td>シェービング</td><td>30</td></tr><tr><td>その他</td><td>30</td></tr></table> ※学生の技術習得進度によって、都度調整を行う。							内 容	時間数	ワインディング	100	シャンプー＆マッサージ	60	創作ウィッグ作成	40	カット	20	その他	30	内 容	時間数	カット	100	ドライヤーセット	40	実務実習	30	シェービング	30	その他	30
内 容	時間数																														
ワインディング	100																														
シャンプー＆マッサージ	60																														
創作ウィッグ作成	40																														
カット	20																														
その他	30																														
内 容	時間数																														
カット	100																														
ドライヤーセット	40																														
実務実習	30																														
シェービング	30																														
その他	30																														
試 験 の 実 施 方 法	衛生・実技試験を年間で2回程度行う。不合格の場合は再試験を行う。																														
成 績 評 価 方 法	90％は衛生・実技試験の評点 10％は授業態度・出席状況																														
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	実習に必要な用具を忘れてしまうと、十分に授業に参加できない場合があります。忘れ物のないように準備をお願いします。 さまざまな技術に見て触れて、自分としての確かな技術を身につけていってください。																														

2026年度 授業概要（シラバス）

大宮理容美容専門学校

課 目 名	ビジネスマナー	課 目 区 分	選択一般 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	木村																										
単 位 数 (時 間 数)	1 単元 (30 時間)	履 修 時 期	1 年次 前期	授 業 方 法	講義	備 考																											
学 習 目 標	社会人としての基本的なルールやマナー、また、一般常識について学び理解する。 正しい動作や言葉づかい、接客や電話対応の基礎について学び、それらを身につけることによって、社会に出てどのような職種に就いたとしても対応できるようになる。																																
使用する テキスト	『ビジネスマナー』（公益社団法人日本理容美容教育センター）																																
年 間 の 授 業 計 画	範囲 第1章～第6章 <table><tr><td>編</td><td>章</td><td>内 容</td><td>時間数</td></tr><tr><td rowspan="7">第2 編</td><td>第1 章</td><td>社会人としての基本</td><td>6</td></tr><tr><td>第2 章</td><td>正しい動作</td><td>3</td></tr><tr><td>第3 章</td><td>言葉づかい</td><td>4</td></tr><tr><td>第4 章</td><td>接客の基礎</td><td>4</td></tr><tr><td>第5 章</td><td>電話対応の基礎</td><td>5</td></tr><tr><td>第6 章</td><td>一般常識、各種マナー</td><td>3</td></tr><tr><td></td><td>グループワークや試験など</td><td>5</td></tr></table>							編	章	内 容	時間数	第2 編	第1 章	社会人としての基本	6	第2 章	正しい動作	3	第3 章	言葉づかい	4	第4 章	接客の基礎	4	第5 章	電話対応の基礎	5	第6 章	一般常識、各種マナー	3		グループワークや試験など	5
編	章	内 容	時間数																														
第2 編	第1 章	社会人としての基本	6																														
	第2 章	正しい動作	3																														
	第3 章	言葉づかい	4																														
	第4 章	接客の基礎	4																														
	第5 章	電話対応の基礎	5																														
	第6 章	一般常識、各種マナー	3																														
		グループワークや試験など	5																														
試 験 の 実 施 方 法	授業内で試験を実施																																
成 績 評 価 方 法	60％は試験 20％は提出物 20％は授業態度・出席状況 評価基準に満たない場合は課題を与え評価とする																																
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	ビジネスマナーは、あらゆる職業において基礎となるものです。社会は様々な年齢層の人たちとのかかわりで成り立っていますので、正しいマナーを理解して自分のものとするといでしょう。																																

2026年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	色彩学	課 目 区 分	選択一般 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	渡 邊
単 位 数 （ 時 間 数 ）	2単位 （60 時間）	履 修 時 期	1 年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	
学 習 目 標	美容の技術であるカラーリングやメイクアップを施術するにあたり、色彩に関する知識を習得しておくことは、理容師・美容師として重要なことである。 「人と色」に着目して、一人ひとりの持っている肌、瞳、髪、頬、唇などの色に合わせ、似合う色を見つけられる知識を持ち、その人の魅力を最大限に引き出して、輝いて見える方法を提案できるようになるべく、パーソナルカラー検定3級の取得を目指す。						
使用する テキスト	・『パーソナルカラー検定3級公式テキスト』（一般社団法人日本カラーリスト協会） ・CUS®157 カラーカード						
年 間 の 授 業 計 画	1. 色彩理論（18時間） 色のしくみ、有彩色・無彩色、色の三属性、CUS®表色系、CUS®色調、アンダートーン、色相配色、色調配色、アンダートーン配色、CUS®配色効果 感情効果、対比と同化 2. 色彩と文化（6時間） 四季の色、日本の色の歴史、色の種類 3. 色彩とファッション（2時間） ファッション概論、ブライダルと色彩 4. パーソナルカラー（12時間） パーソナルカラー、4シーズンカラーの特徴、皮膚・髪の種類、ヘアメイクの歴史 5. 総合学習（12時間） 小テスト、模擬テスト 6. 演習授業（10時間） 各色調（9色調）の素材収集 シーズンカラーによるコラージュ制作						
試 験 の 実 施 方 法	授業時間内に複数回の試験（実際のカラー検定に沿った内容）を実施。						
成 績 評 価 方 法	試験の成績（模擬テスト）を 60%（提出物等含む） 複数回の小テストの平均点 10% 作品制作を 20%（1 作品 10% × 2） 授業への取り組み状況（出席状況を含む）10%、と併せて評価する。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	日常の中に当たり前存在する「色」ですが、そのメカニズムはとても奥深いものです。私たちがどのように色を認識しているのかを理解し、また、生まれ持った色＝パーソナルカラーについての知識を習得することで、理容師・美容師としての技能をさらに高めることができます。 パーソナルカラー検定3級に沿った内容で授業を行いますので、あわせて資格取得を目指しましょう。						

2026年度 授業概要（シラバス）							大宮理容美容専門学校
課 目 名	クリエイティブ ワーク	課 目 区 分	選択一般 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	大 草
単 位 数 (時間数)	30 時間	履 修 時 期	1 年次 前期	授 業 方 法	講義・ 実習	備 考	1 年次のみ履修
学 習 目 標	ビューティクリエーターにとって ”モノの本質を極める目を養う” 事はとても重要です。人体頭部の骨格・筋肉・シワなどの理解に即した表現が出来、またバランスの取れた表現技法を習得する事が重要です。当初は顔のパーツがしっかりと表現できる様に指導をし、後半部分には学内文化祭に向けてのヘアーデザイン画の集大成として取り組んでいきます。						
使用する テキスト	自前参考テキスト						
年 間 の 授 業 計 画	基礎講義 ：鉛筆の削り方、持ち方、筆圧の調整、点・線・面の理解、光と影（陰）の理解、デッサンとは 基礎演習 ：鉛筆によるグラデーション制作 表現演習 -1 ：人体頭部の理解及び表現（顔のパーツの特徴及び表現方法） 1：目の描き方及び目の周辺の捉え方 2：鼻の描き方及び目の周辺の捉え方 3：口唇の描き方及び目の周辺の捉え方 4：耳殻の描き方及び目の周辺の捉え方 5：髪の毛の描き方及び各ヘースタイル画の挑戦 表現演習 -2 ：ヘアーデザイン画への作品作り						
試 験 の 実 施 方 法	試験は実施しませんが、各課題提出物や授業態度などで評価を行う。						
成 績 評 価 方 法	90%は各課題提出物の評価 10%は授業態度や授業に対する意欲、出席状況						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	初めて本格的な絵を描くという学生がいると思いますが、鉛筆の削り方、持ち方から始め人体頭部構造の理解と共に表現技術を習得する事です。感性と共に ”観性” を磨く事が自分のスキルアップにつながっていきます。 疑問に思う事や分からない事があれば是非、積極的に申し出て下さい。良きアドバイスが出来ると思います。						

2026年度 授業概要（シラバス）							大宮理容美容専門学校
課 目 名	メイク技術	課 目 区 分	選択専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅（朱）
単 位 数 （ 時 間 数 ）	2単位 （60 時間）	履 修 時 期	1 年次 前期	授 業 方 法	講義・ 実習	備 考	
学 習 目 標	メイクアップは生身の「人間」に対して行う、装飾的な表現であることを理解する。 皮膚や骨格、筋肉などの印象に大きな影響を与え、色とトーン、質感のイメージについても知っておく必要がある。 色彩心理学による人間の感情変化について知ること、メイクアップ効果は大きく違いをすること、さらには、人の性格を外面でとらえる見方を学び、目的に合った顔づくりや見せたい印象を理論と実技で基礎を学び身に付けること。						
使用する テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 公式テキスト 3 級 2 級（社団法人 JMA）						
年 間 の 授 業 計 画	後期 （60 時間） メイクアップ 3 級検定 （33 時間） 1 メイクアップを学ぶにあたって 2 3 級テーブルセッティング 3 スキンケア 4 ベースメイクアップ メイクアップ 3 級検定の一連の流れ（30 分間） メイクアップ 2 級検定 （27 時間） 5 2 級検定テーブルセッティング 6 スキンケア 7 ベースメイクアップ 8 アイメイクアップ 9 リップメイクアップ 10 メイクアップ 2 級検定の一連の流れ（50 分間）						
試 験 の 実 施 方 法	メイクアップ 3 級検定（30 分間） 技術チェック メイクアップ 2 級検定（50 分間） 技術チェック 合格ラインまで達しない場合は何度か技術チェックを行い、平均レベルまで上げる						
成 績 評 価 方 法	80%は衛生・実技内容 20%は授業態度、取り組み方、出席状況						
学 生 へ の メ ャ ッ ー ジ	忘れ物が無いか事前に確認し、時間に余裕をもって行動をしましょう テキストを読んで知識を増やす、確認をして繰り返し練習しましょう。 メイクアップの上達の秘訣はそれしかありません。 基礎をマスターして、沢山の肌に触れ美しさを引き出して、表情までも輝かせましょう。						

2026年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	ネイル技術	課 目 区 分	選択一般 教育科目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	安住
単 位 数 （ 時 間 数 ）	2 単位 （60 時間）	履 修 時 期	1 年次 前期	授 業 方 法	講義 実習	備 考	1 年次のみ履修
学 習 目 標	ネイルケアを学び、技術面だけでなく、ネイルに関する正しい知識を理解すること。 JNEC 日本ネイリスト協会 3 級に合格するために、安全で適切な知識を理解すること。						
使用する テキスト	JNAテクニカルシステムベーシック（NPO法人日本ネイリスト協会）						
年 間 の 授 業 計 画	1, 実技 ・ テーブルセッティング ・ 手指消毒 ・ ファイリング ・ クリーンナップ ・ カラーリング ・ フラットアート ・ 通し練習 ・ 模擬試験 2, 学科 ・ 基礎理論 ・ 確認テスト ・ 模擬試験						
試 験 の 実 施 方 法	検定前の、授業時間内に模擬試験（実技・学科）を実施 内容は、JNEC日本ネイリスト協会検定3級と同等のもの						
成 績 評 価 方 法	・ 実技試験 60% ・ 学科試験 30% ・ 授業態度 10%						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	本講義では、日本ネイリスト技能検定試験3級を取得することを目標にしています。 楽しく学び、基礎技術、基礎知識を身に着けるための繰り返しのトレーニングを行います。						

2026年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	エステティック 技術（一）	課 目 区 分	選択専門 教育科目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅（宗）
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1単位 （30 時間）	履 修 時 期	1 年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 30 時間 履修
学 習 目 標	エステティック技術の目的が心身の健康と美の実現にあることを理解し、科学的事実と合理的思考に裏付けられたエステティック技術の重要性を認識すること。 エステティック技術の歴史、理論、現状のほか、各種のエステティック技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ぶこと。特に、エステティック技術の効果と安全性に関する科学的基礎について十分に認識すること。 フェイシャルエステティックについて、その理論と実際の技術を学ぶこと。						
使用する テキスト	認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン『理論と技術』（一般社団法人 日本エステティック協会）						
年 間 の 授 業 計 画	年間の授業計画（後期 30 時間） Chapter 1 エステティックとは Chapter 2 ホメオスタシスとストレス Chapter 3 身体のしくみと働きⅠ Chapter 5 皮膚のしくみと働きⅠ Chapter 6 皮膚の仕組みと働きⅡ Chapter 7 エステティックカウンセリングとは 総まとめ						
試 験 の 実 施 方 法	Chapter ごとに小テストを実地。Chapter 1 から Chapter 6 までの総まとめテストを実施 小テストの正答について、本を使用し各自で調べさせたものを提出させフィードバックする。 期末試験は行ないません。						
成 績 評 価 方 法	座学（小テスト状況＋授業態度＋出席状況）をそのまま後期の評価とする。 後期のみの履修なので、後期評価が学年評点となる。						
学 生 へ の メ ャ ッ セ ー ジ	エステティックに関する基礎知識と働くうえで基礎的な心遣いなどを学びます。 皮膚は「心の鏡」といわれ、心身の影響を受けやすいのでエステの授業を通して自分の身体・心の在り方をポジティブにとらえて、心身共に健康であるよう努力しましょう。 他の課目とリンクする部分がありますのでしっかりと学んで生かしてください。 授業では教科書の大切なところにアンダーラインを引かせますので蛍光ペン（黄・ピンク）を用意してください。 本に目を通し復習をしっかりと行ってください。						

2026年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	サロンワーク スキル（一）	課 目 区 分	選択専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	木村 （黒岩）
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1単位 （30 時間）	履 修 時 期	1 年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 30 時間 履修
学 習 目 標	「ビジネスマナー」で学んだことを基礎として、理容室における接客やマナー、スタッフとの連携作業等、実際のサロンワークに必要な知識を身につけるとともに、実践的な技術にも挑戦し、即戦力として求められる人材を目指し、実習等を通して習得すること。						
使 用 す る テ キ ス ト	『ビジネスマナー』（公益社団法人日本理容美容教育センター） 『理容技術理論 1・2』（公益社団法人日本理容美容教育センター） 『理容実習 1・2』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	下記のいずれかから、スタンダードな技術や流行のスタイルを選択し、基礎知識と実践を交えて実施する ・カラーリング技術 ・パーマ技術 ・カット技術 ・セット技術						
試 験 の 実 施 方 法	試験は行わないが、出席状況や授業態度等で評価を行う。						
成 績 評 価 方 法	60％は実技内容 40％は授業態度・出席状況 評価基準に満たない場合は課題を与え評価とする						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	様々な技術を他の学生と連携して体験することで、自分の技術の幅を増やしたり、効率を意識することができます。 人によって得意・不得意があるとは思いますが、失敗を恐れず積極的に参加しましょう。						

2026年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	関係法規・制度（二）	課目 区分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	藤森（康）
単 位 数 （ 時 間 数 ）	0.5 単位 （15 時間）	履修 時期	2 年次 前期	授 業 方 法	講義	備 考	1 年次で 15 時間 履修
学 習 目 標	理容師の業務に関係する衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度について、正しい知識を習得しておかなければならない必要性を理解し、あわせて、公衆衛生を担う理容師の社会的責務、職業倫理について、自覚すること。 理容の業務に関する規定内容を正確に理解するとともに、衛生法規が、理容業を行う場合の指針として有する意義を把握すること。						
使用する テキスト	『関係法規・制度』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	1. 関係法規・制度（一）の学習の確認（10時間） ・法制度の概要 ・衛生行政の概要 ・理容師法 2. 関連法規（3時間） ・生活衛生関係営業の運営の適正化及び進行に関する法律 ・株式会社日本政策金融公庫法 ・労働基準法 ・労働安全衛生法 ・地域保健法 ・消費者基本法 3. 総合学習（2時間） ・期末考査の実施と解説						
試 験 の 実 施 方 法	期末考査を実施。 出題方法は○×問題と四択問題。						
成 績 評 価 方 法	90%は期末考査の評点 5%は小テストの評点（授業では単元ごとに小テストを実施します） 5%は出席状況や授業態度						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	本講義では「理容師法」中心とした理容業に関わる各種の法制度を学習していきます。 関係法規・制度（一）においてインプット形式で学習した内容を、アウトプット形式で学習し理解を深めていくことに加え、「理容師法」に限定されない、理容業に関連する法規を幅広く学習していきます。 授業では教科書とノートを必ず持参しましょう。また、実施した小テスト問題は期末考査や国家試験前に役立ちますので、紛失しないように管理することをお勧めします。						

2026年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	衛生管理（二）	課 目 区 分	必修専門教 育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	森山
単 位 数 （ 時 間 数 ）	2単位 （60 時間）	履 修 時 期	2年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	1年次で30時間 履修
学 習 目 標	公衆衛生の意義と本質とを理解し、理容師が公衆衛生の維持と増進とについて重大な責務を担わなければならない理由は何かを十分に理解すること。特に生活衛生の意義と目的について、理容師の業務と関連付けながら具体的に理解すること。 理容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視し、理容における衛生措置の重要性について理解すること。特に、理容器具などの消毒法は、理容業務の衛生性を担保する上で最も重要な技術であり、その意義と原理について十分に理解するとともに、その適正な実施方法を身に付けること。						
使用する テキスト	『衛生管理』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	3編 感染症 1章 感染症の総論 （15時間） 2章 感染症の各論 （15時間） 4編 衛生管理技術 （20時間） 1章 消毒法総論 2章 消毒法各論 3章 消毒法実習 5編 衛生管理の実践例 （5時間） 1章 理容所における衛生管理要領 2章 理容所の自主管理点検表 総まとめ（5時間）						
試 験 の 実 施 方 法	前期、後期定期考査内で45分間の試験を実施する。 考査の結果、60点未満の者は再試験を行う。 出題方法は、穴埋め問題と三択問題あるいは四択問題。						
成 績 評 価 方 法	定期考査の点数をそのまま前期、後期の成績評価とする。 但し、前期の成績にノート提出点を0～5点含む場合がある。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	1. 感染症、消毒法についての知識をしっかりと覚えるため、国内外の感染症に関するニュースには耳を傾け、予防や消毒を実践できるようにしてほしい。 2. 理解しやすいように工夫を重ね板書しているので、ノートを取ってほしい。 3. テスト前には、集中して勉強すること。 4. 筆記用具として、マーカーペン（黄色）を用意しておくことと学習がスムーズです。 5. 授業では教科書とノートに加え配布プリントを必ず持参しましょう。						

2026年度 授業概要（シラバス）						大宮理容美容専門学校	
課 目 名	保健（二）	課 目 区 分	必修専門教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	木村
単 位 数 （ 時 間 数 ）	2単位 （60 時間）	履 修 時 期	2年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	1年次で 30 時間 履修
学 習 目 標	理容技術の基礎となる人体について、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識を習得すること。 理容の業務を安全かつ効果的に行うためには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解すること。						
使用 する テキスト	「保健」（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	前期30時間 範囲 第1編						
	編		章	内容		時間数	
	第1編	第1章	頭部、顔部、頸部の体表解剖学		2		
		第2章	骨格器系		3		
		第3章	筋系		3		
		第4章	神経系		3		
		第5章	感覚器系		3		
		第6章	血液と免疫系		3		
		第7章	循環器系		3		
		第8章	呼吸器系		3		
		第9章	消化器系		2		
	全て	復習や小テストなど		5			
	後期30時間 範囲 第1編・第2編						
	編		章	内容		時間数	
	第1編・第2編		全て	復習、小テスト、国家試験対策など		30	
試 験 の 実 施 方 法	前期末考査及び後期末考査を実施 前期の出題範囲は第1編 後期の出題範囲は第1編・第2編 考査の結果、60 点未満の者は再試験を行う。						
成 績 評 価 方 法	90％は期末考査 10％は授業態度・出席状況						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	授業では、今後の試験対策として、記憶して欲しい部分は板書をしていきますので、ノートは必ず持参してください。また、ノートを見やすくするために、色ペンやマーカーペンがあるといいでしょう。						

2026年度 授業概要（シラバス）						大宮理容美容専門学校																			
課 目 名	香粧品化学（二）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	川崎																		
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1 単位 (30 時間)	履 修 時 期	2 年次 後 期	授 業 方 法	講義	備 考	1 年次で 30 時間履 修																		
学 習 目 標	香粧品の化学的性質と安全な取扱方法を理解し、理容施術における適切な使用知識を習得することで、健康被害を防ぎながら効果的なサービス提供ができるようになることを目標とする。 香粧品の成分や作用機序に関する基礎知識を体系的に学び、施術目的に応じた適切な選択ができる判断力を養う。 関連する法規や安全基準について理解を深め、現場で求められる責任ある取り扱いの基礎を確立する。																								
使用する テキスト	「香粧品化学」（公益社団法人日本理容美容教育センター）																								
年 間 の 授 業 計 画	範囲：第1編・第2編 後期：30時間 <table><tr><th>編</th><th>章</th><th>内 容</th><th>時間数</th></tr><tr><td rowspan="3">第2編</td><td>第1章</td><td>スキンケア製品</td><td>6</td></tr><tr><td>第2章</td><td>メイクアップ製品</td><td>4</td></tr><tr><td>第3章</td><td>ヘアケア、ヘアメイクアップ及びス キャルプケア製品</td><td>10</td></tr><tr><td>第1編・第2編</td><td>全て</td><td>復習、小テスト、国家試験対策など</td><td>10</td></tr></table>							編	章	内 容	時間数	第2編	第1章	スキンケア製品	6	第2章	メイクアップ製品	4	第3章	ヘアケア、ヘアメイクアップ及びス キャルプケア製品	10	第1編・第2編	全て	復習、小テスト、国家試験対策など	10
編	章	内 容	時間数																						
第2編	第1章	スキンケア製品	6																						
	第2章	メイクアップ製品	4																						
	第3章	ヘアケア、ヘアメイクアップ及びス キャルプケア製品	10																						
第1編・第2編	全て	復習、小テスト、国家試験対策など	10																						
試 験 の 実 施 方 法	後期末考査を実施 出題範囲は第1編・第2編																								
成 績 評 価 方 法	90%は期末考査 10%は授業態度・出席状況																								
学 生 へ の メ ャ ッ ー ジ	授業では教科書、ノート、筆記用具を忘れずに持参してください。 教科書にアンダーラインを引くので色ペンかマーカーを2色用意してください。																								

2026年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	文化論（二）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅（宗）
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1 単位 （30 時間）	履 修 時 期	2 年次 前期	授 業 方 法	講義	備 考	1 年次で 30 時間履 修
学 習 目 標	理容業の使命の一つが、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識し、この使命の達成のために必要な美的感覚を身に付け、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力を養うこと。 理容の業務を全うするため、美の成り立ちやあり方を知り理解を深め、確かな技術力を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを学ぶこと。						
使用する テキスト	『文化論』（公益社団法人 日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	年間の授業計画 第3章 ファッション文化史 日本編 （24 時間） 1 縄文・弥生・古墳 2 古代 （飛鳥・奈良・平安時代） 3 中世 （平安末・鎌倉・室町・戦国時代） 4 近世Ⅰ （戦国末・安土桃山時代） 5 近世Ⅱ （江戸時代） 6 近代 （明治・大正・昭和 20 年代まで） 7 現代Ⅰ （1945 年～1950 年代） 8 現代Ⅱ （1960 年代～1970 年代） 9 現代Ⅲ （1980 年代～1990 年代） 10 現代Ⅳ（ 2000 年代以 礼装の種類 （和装の礼装・洋装の礼装） 総合学習 （6 時間）						
試 験 の 実 施 方 法	前期・後期期末考査を実施						
成 績 評 価 方 法	期末考査の評点						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	日本の「理容」「美容」の歴史を現代まで学びます。各年代のファッションを髪型、化粧、服装などに分けて特徴をとらえ、時代背景と、その生活環境（庶民、上流社会）などによるファッションの流行を探ります。 理容師・美容師に求められる礼装の知識を、和装・礼装に分けて学びます。 1 年次で学んだこともしっかりと復習し、国家試験合格に向けて頑張りましょう。						

2026年度 授業計画（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	理容技術理論（二）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅（朱）
単 位 数 （ 時 間 数 ）	2単位 （60 時間）	履 修 時 期	2年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	1年次で90時間履修
学 習 目 標	理容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けること。 理容の業務を安全かつ効果的に行うため、理容器具の正確な科学的知識と合理的思考に裏付けされた正しい取扱いの方法と理容の基礎的技術とを作業の実際に即して学び、これに習熟すること。あわせて、理容器具による危害を防止するための使用上の注意を学ぶこと。 優れた理容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを十分に理解すること。						
使 用 す る テ キ ス ト	「理容技術理論1」（公益社団法人日本理容美容教育センター） 「理容技術理論2」（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	第1章 理容技術の基礎 前期（30時間） 第2章 理容用具 第3章 ヘアデザイン 第4章 ヘアカット 第5章 ヘアセッティング 第6章 パーマネントセット 第7章 ヘアカラーリング 第8章 シェービング 第9章 理容エステティック 第10章 理容クリニック 第11章 シャンプーイング&リンシング 第12章 理容マッサージ 第13章 ヘアトリートメント 第14章 スカルプトリートメント 1年次の復習 ワークブックを使用し問題を解く 後期（30時間）						
試 験 の 実 施 方 法	前期、後期定期考査内で筆記試験（45分間）を実施。						
成 績 評 価 方 法	期末考査の成績						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	授業では、今後の試験対策として、記憶して欲しい部分は板書をしていきますので、ノートは必ず持参してください。また、ノートを見やすくするために、色ペンやマーカーペンがあるといいでしょう。						

2026年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	運営管理（二）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅（宗）
単 位 数 （時間数）	0.5 単位 （15 時間）	履 修 時 期	2 年次 前期	授 業 方 法	講義	備 考	1 年次で 15 時間 履修
学 習 目 標	経営管理及び労務管理の基本的事項を知り、経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学ぶこと。 理容業の経営では、人が大きな役割を果たす。従業員として働いていくうえで求められることについて理解し学んだことを実践すること。 理容業において、適切な接客態度がいかに重要であるかを自覚するとともに、消費者対応の基本を学び、実践する能力を身に付けること。						
使用する テキスト	『運営管理』（公益社団法人 日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	年間の授業計画 第1編 経営者の視点 （4時間） 第1章 経営とは・経営者とは 第2章 理容業・美容業の経営について 第3章 資金の管理 第2編 人と言う資源 従業員としての視点 （6時間） 第1章 人という資源 第2章 従業員としての視点から（1年次の復習） 第3章 健康・安全な職場環境の実現 第3編 顧客のために （2時間） 総合学習 （3時間）						
試 験 の 実 施 方 法	後期期末考査内で筆記試験（45分間）を実施 穴埋め問題、4択問題、○×問題等						
成 績 評 価 方 法	期末考査の評点						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	顧客が喜んでくれるサービスはどのように創られ、提供されるのか。その背景にある考え方を理解し、よいサービスの実現に貢献するための知識や方法を学んでいきましょう。 1年次で学んだことを復習しましょう。 授業では教科書とノートを必ず持参しましょう。筆記用具としては蛍光ペン（黄・ピンク）を用意しておくことで学習がスムーズです。						

2026年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	理容実習（二）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅(朱)
単 位 数 (時 間 数)	14単位 (420 時間)	履 修 時 期	2年次 通年	授 業 方 法	実習	備 考	1年次で 480 時間 履修
「実務経験のある教員による授業」に該当する課目							
理容師として理容室に勤務していた教員が、実際に理容室で行われているカット、シェービング等の技術を取り入れた授業を行う。							
学 習 目 標	理容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得すること。 理容所における衛生管理の重要性を認識し、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けること。 個々の客の要望に応じた理容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けること。						
使用する テキスト	「理容実習 1」「理容実習 2」（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	前期（240 時間） ・カット、シェービング道具の並べ方 ・ミディアムカットカット工程 ・ネックシェービング工程 ・フェイスシェービング工程 ・顔面処置の工程 ・整髪工程 ・ブロースカット ・レディースカット ・パーマメントウェーブ ・アイロンパーマ 前期（10 時間） ・創作ネイル 後期（180 時間） ・国家試験（実技試験）練習						
試 験 の 実 施 方 法	衛生・実技試験を年間で 3 回程度行う。不合格の場合は再試験を行う。						
成 績 評 価 方 法	80%は衛生・実技試験の評点 20%は授業態度・出席状況						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	忘れ物がないように準備してください。実技は、繰り返し練習しましょう。						

2026年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	エステティック 技術（二）	課 目 区 分	選択専門 教育科目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古 堅（宗）
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1単位 （30 時間）	履 修 時 期	2 年次 前期	授 業 方 法	講義	備 考	1 年次で 30 時間履 修
学 習 目 標	エステティック技術の目的が心身の健康と美の実現にあることを理解し、科学的事実と合理的思考に裏付けられたエステティック技術の重要性を認識すること。 エステティック技術の歴史、理論、現状のほか、各種のエステティック技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ぶこと。特に、エステティック技術の効果と安全性に関する科学的基礎について十分に認識すること。 フェイシャルエステティックについて、その理論と実際の技術を学ぶこと。						
使用する テキスト	認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディーエステティシャン『理論と技術』 （一般社団法人 日本エステティック協会）						
年 間 の 授 業 計 画	年間の授業計画（前期 30 時間） Chapter 1 から Chapter 7 までの復習 Chapter 8 化粧品の種類と働き Chapter 9 栄養の知識 Chapter10 エステティックにおける衛生と消毒 Chapter11 エステティックの基礎知識 Chapter13 フェイシャルエステティックの基礎知識 総まとめ						
試 験 の 実 施 方 法	Chapter ごとに小テストを実地する。 小テストの正答について、本を使用し各自で調べさせたものを提出させフィードバックする。 総合テストを。						
成 績 評 価 方 法	座学（小テスト状況＋授業態度＋出席状況）を評価する。 前期のみの履修なので、検定試験を受けた結果と座学を加味して学年評点となる。 何らかの理由で検定試験を受験できない場合は課題を与え、それをクリアした場合評点とする。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	エステティックに関する基礎知識と働くうえで基礎的な心遣いなどを学びます。 皮膚は「心の鏡」といわれ、心身の影響を受けやすいのでエステの授業を通して自分の身体・心の在り方をポジティブにとらえて、心身共に健康であるよう努力しましょう。 他の課目とリンクする部分がありますのでしっかりと学んで生かしてください。 授業では教科書の大切なところにアンダーラインを引かせますので蛍光ペン（黄・ピンク）を用意してください。 本に目を通し復習をしっかりと行ってください。						

2026年度 授業概要（シラバス）						大宮理容美容専門学校	
課 目 名	サロンワーク スキル（二）	課 目 区 分	選択専門 教育課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	木村 （黒岩）
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1単位 （30 時間）	履 修 時 期	2 年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	1 年次で 30 時間履 修
学 習 目 標	「ビジネスマナー」や1年次の「サロンワークスキル」で学んだことを基礎として、理容室における接客やマナー、スタッフとの連携作業等、実際のサロンワークに必要な知識を身につけるとともに、実践的な技術にも挑戦し、即戦力として求められる人材を目指し、実習等を通して習得すること。						
使 用 す る テ キ ス ト	『ビジネスマナー』（公益社団法人日本理容美容教育センター） 『理容技術理論1・2』（公益社団法人日本理容美容教育センター） 『理容実習1・2』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	下記のいずれから、スタンダードな技術や流行のスタイルを選択し、基礎知識と実践を交えて実施する ・カラーリング技術 ・パーマ技術 ・カット技術 ・セット技術						
試 験 の 実 施 方 法	試験は行わないが、出席状況や授業態度等で評価を行う。						
成 績 評 価 方 法	60％は実技内容 40％は授業態度・出席状況 評価基準に満たない場合は課題を与え評価とする						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	様々な技術を他の学生と連携して体験することで、自分の技術の幅を増やしたり、効率を意識することが出来ます。 人によって得意・不得意があるとは思いますが、失敗を恐れず積極的に参加しましょう。						

2026年度 授業概要（シラバス）							大宮理容美容専門学校
課 目 名	理容総合理論	課 目 区 分	選択専門 教育科目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	木村
単 位 数 (時 間 数)	2単位 (60 時間)	履 修 時 期	2年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	
学 習 目 標	理容師が理容技術の専門家であるとともに、地域の保健衛生の担い手でもあることを自覚し、これまで必修科目で学習を進めてきた各教科について、その関わり合いを認識し、横断的な学習を行うことで、各教科科目についてのより深い理解を進める。						
使 用 す る テ キ ス ト	『関係法規・制度』『運営管理』『衛生管理』『保健』『化粧品化学』『理容技術理論Ⅰ』『理容技術理論Ⅱ』『文化論』『ワークブック』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	1. 教科科目の関連性（6時間） 各教科の内容について横断的な理解を深める 2. 学習内容の確認（6時間） これまでの学習についての理解の確認を行う 3. 総合演習（42時間） 演習問題による総合的な学習を行う 4. 模擬試験（6時間） 成績評価に必要な試験を実施する						
試 験 の 実 施 方 法	授業時間内に2回模擬試験を実施する。 評価基準に満たない場合は課題を与え評価とする						
成 績 評 価 方 法	上記試験の結果をもって成績評価とする。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	これまでの学習の振り返りを行いながら、その関連性について理解を深めていきます。 例えば、「関係法規・制度」で学習した法律が「運営管理」でどう活きるのか、「化粧品化学」で学習した薬剤が「技術理論」でどう使われるのかなどを学習するということです。 学習の多くは演習問題形式で進めていきますが、問題は解くことに意味があるわけではありません。理解の確認をしたうえで、理解の不足している点についてさらに学習を進めていくことが大切です。						

2026年度 授業概要（シラバス）							大宮理容美容専門学校
課 目 名	理容総合技術	課 目 区 分	実習	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	古堅（朱）
単 位 数 （ 時 間 数 ）	6単位 （180 時間）	履 修 時 期	2年次 通年	授 業 方 法	実習	備 考	
「実務経験のある教員による授業」に該当する課目							
理容師として理容室に勤務していた教員が、実際に理容室で行われているカット、パーマ、ウェーブ、シェービング等の技術を取り入れた授業を行う。							
学 習 目 標	必修課目において習得した基本的技術を基に、さらに発展させた高度な技術を身に付けるとともに、理容デザインの最新の国際的動向について学ぶこと。 常に新しい技術の吸収を怠らず、また、自らも新しい技術の開発に努める姿勢を習慣付け、専門技術者としての心構えを身に付けること。						
使用する テキスト	「理容実習 1」「理容実習 2」（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	前期（90 時間） ・バックシャンプー（12 時間） ・ドライヤーセット ・ヘアショーの技術 ・レディースカット 後期（90 時間） ・ヘアショーの技術 ・パーマ、ウェーブ、カット （チオグリコール酸、システインとの比較） ・レディースシェービング ・アイロンパーマ ・カット～整髪（国試工程）						
試 験 の 実 施 方 法	ヘアショーの取り組み方、仕上がり 各技術の出来具合						
成 績 評 価 方 法	80%は衛生・実技内容 20%は授業態度、取り組み方、出席状況						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	・繰り返し練習し、身につけましょう						